

令和 7 年度第 1 回 柏市教育福祉会館運営協議会会議録

1 開催日時

令和 7 年 8 月 2 1 日（木）午後 1 時 3 0 分から午後 3 時まで

2 開催場所

ラコルタ柏 4 階集会室（柏市柏五丁目 8 番 1 2 号）

3 出席者

(1) 委員（10 名）

堀内委員（会長），岩永委員（副会長），赤松委員，伊藤委員，岩立委員，金子委員，坂上委員，杉山委員，丹間委員，森委員

(2) 関係部署（5 名）

矢部福祉部長，宮本生涯学習部長，渡邊福祉部次長兼福祉政策課長，田中生涯学習課長，村山中央公民館長

(3) 事務局（8 名）

上杉中央公民館統括リーダー，豊島中央公民館副主幹，泉田福祉政策課副主幹，中間福祉政策課主事，影山ラコルタ柏コーディネーター，二瓶ラコルタ柏コーディネーター，柏市社会福祉協議会高橋地域福祉課課長，柏市社会福祉協議会地域福祉課江里口主事

4 議題

(1) 令和 7 年度事業計画及び実施状況

(2) 教福連携事業について

5 議事（要旨）

(1) 柏市教育福祉会館の概要及び公民館運営審議会休会について，事務局より説明を行った。

(2) 議題(1)及び(2)について，事務局から説明を行った。各委員からの主な意見・質問は，次のとおり。

ア 議題(1)について

・ホワイトボード企画について

(丹間委員)

ホワイトボード企画について、匿名か、それとも書いた人の名前がわかるようになっているのか。

(事務局)

匿名です。

(岩永委員)

匿名であれば、やりたいことを書いた人と打ち合わせ等もなく実現させていくということか。

(事務局) 書かれてる内容の中から実現可能な内容については中央公民館で実施している。

(堀内会長)

匿名だと意図された内容だったかどうかの確認が困難。応募方法と意見の取り上げ方についても非常に重要な視点かと思う。

(赤松委員)

募集して人数が多かった企画について再度開催する予定はあるか。

(事務局)

まだ検討していないが、今回紹介した企画について第2弾をやってみたいという話は担当者間で出ている。

(赤松委員)

募集人数が多いのであれば、やってみるとよいと思う。

(丹間委員)

匿名での声の収集も一つの方法だが、公民館は学びを通じた人のつながりが重要。9ページの「やって見えたこと」については、やる前からむしろ一番大事にするのが公民館なのではないかと社会教育の視点から思うところ。単発イベントではなく、継続的な学びとつながりを意識すべき。

(事務局)

補足として、今後実施予定の子供ダンスイベントは、希望者が駅前イベントにも参加できるよう連携を図っている。

・ラコルタ 柏の課題について

(森委員)

ラコルタ 柏の設置目的に対し、事業以外の課題認識を伺いたい。

(事務局)

中央公民館は、地域課題解決に向けた講座を実施する際にどのような内容が求められているのかというニーズの把握が難しい。人材育成や団体の地域への浸透も課題。

(事務局)

総合福祉センターでは、今年度より1階のあ・えーるテラスの事業が始まり、課題を抱える方の社会参加促進が目標。利用者の興味関心の引き出し方が課題。

(森委員)

地域課題解決の場としてラコルタ 柏をどう活用するかが重要だと分かった。各事業において、地域の課題解決をしたい方が、ラコルタ 柏に来ないもしくはラコルタ 柏を知らないかもしれないことについてどのように考えているか。

(事務局)

柏市には公民館が1館しかなく、地域の声の吸い上げが困難。地域に入り込んでいる担当課から情報を得ながら、課題解決をしようと考えている。

(事務局)

広報力不足。また、あ・えーるテラス事業では、自己肯定感の低い利用者への意識の底上げするために利用者と一緒になって考えていくことが必要。

(森委員)

広報力が課題でそれをどうやって打ち出していくかだと思う。地域の中で人材育成や、地域の中で取り組みたい人にこの場に来てもらうような取り組みをやっていけると良い。

・公民館について

(丹間委員)

近隣センターや図書館分館と連携し，ネットワークを張っていくことが重要。スマホ講座のような事例が情報格差の是正だけでなく多世代交流ができた好例だと思う。

（堀内委員）

子供向けイベントについては，子供達に開催された目的を考えさせるのか，親や保護者への意識づけをさせるのか，目的を明確に。

（伊藤委員）

小学校では地域学習を実施しており，地域の産業や伝統芸能等について地域の方の話を伺う等，非常に活発であり，近隣センターとの連携は重要だと感じる。近隣センターで出張講座の開催や，こども食堂との連携等を行うことで子供も集まってくるのではないかな。

（金子委員）

公民館と近隣センターの立ち位置の差は何か。地域間連携の促進のために，近隣センターを活用できないかな。

（事務局）

かつては各近隣センターに分館があったが廃止され，その後事業仕分けにより近隣センターで生涯学習事業を行わないこととなった経緯がある。昨年度のスマホ講習会で近隣センター12館を回った際，参加人数の地域差が大きく，工夫が必要だと感じたところ。

（事務局）

担い手不足により講座を行わなくなったことも一つの影響と考えている。出張講座などを強化していく方針。また，市民活動支援課と話し合いを始めたところで，近隣センターがもっと役目を果たせるのではないかと考えている。ご指摘いただいたことに対して同じように受け止めているので，今後皆さんにご意見をいただく際にはぜひよろしくお願いしたい。

（金子委員）

地域の担い手確保には，ぜひ公的な支援をお願いしたい。

（伊藤委員）

学校が何か出来ることとして、近隣センターの活用を検討。
子供の作品展示では、子供とその親や祖父母が見に来るので、
そういった方法で地域との接点を広げられると考えている。

イ 議題(2)について

(杉山委員)

「語る Bar Andante」企画について、孤立を感じやすい学生は多いと思う。孤立しやすい学生にとって、仲間と出会える場は重要。

(堀内委員)

若者に情報を届けるには、どの媒体が有効か。

(杉山委員)

若者がターゲットなら、SNS (Instagram, X) をもっとうまく活用すれば、若い層への注目も一層集まると思う。

(堀内委員)

ラコルタ柏フェスティバルの参加団体減少の理由は何か。

(事務局)

最初の頃は、実行委員会への参加負担や参加申込からのやり取りをスマホにしたことが一因。昨年度から今年度にかけての減少した理由については詳細を調査中。

(赤松委員)

フェスティバルの参加団体だが、別のイベントとの日程重複や実行委員会への参加負担が参加減少の要因。当日の手伝いに人員を割り当てられない等、団体の事情も考慮いただきたい。

また、「ニュースレター」企画について、高齢者には紙媒体が有効であるため、引き続き配架しつつ、配架場所の拡充をすると見る方も増えると思う。

(坂上委員)

「防災かるた」企画の発案者である。JSI に参加してみて、やってみたいことをラフに相談できる機関があるというのは、地域のプレーヤーを取り込む良いきっかけになっていると思う。ラコルタ柏の支援で団体が自信やノウハウを育て、実績

をつけることで、将来的には学校等に展開できる広がりを感じている。

また、課題としては、紙媒体の配架場所の情報が不足していることや、情報発信の面ではSNSの新機能（リポスト）を活用し何度でも広報することが必要。併せて、議題1のスマホ講座については、セキュリティ面の教育も重要。高齢者が安心して使えるような内容になるとよい。

ウ その他のご意見等

（岩立委員）

日頃よりラコルタ柏の料理教室や体操教室等に参加している。立場上、様々な情報を得られるためこのような教室に参加できるが、周りは知らない人が非常に多い。「ラコルタ柏」という愛称も認知度が低く、PR強化が必要。

（岩永委員）

ラコルタ柏の雰囲気の良いさに驚いた。今後の発展に期待。

6 その他

事務局から次回開催予定を示した。

7 傍聴

傍聴者なし

以上